

愛國義勇軍主義綱領及び趣旨

今や結成準備間に於ける民意を察し、本軍の主義綱領を簡明確切に表はしその趣旨を平易に説き、以て大衆の理解を得んがため、本文の如く改めし。雖も、その精神たるや、毫も素と異なることなし。しかして所謂主義は、本軍の向ふべき目標を總括的に示し、綱領は目標に向つて進むため、現下の情勢上期成すべき大綱を表はし、趣旨は主義綱領の因つて来る所以を聲明したるものとす。

主義

皇道日本を推し、仁愛を世界に布かんがため、皇國の國本を鞏固ならしめ以て現下諸國難の打開に邁進す。

綱領

- 一、皇祖肇國の神勅を奉戴し、建國精神の普及徹底を期す。
- 二、經濟の國家統制と、日滿經濟プロツクの樹立を圖り、國民生活の救済と、民族大陸發展の促進を期す。
- 三、積悪既成政黨を打倒し、國民共存共榮の善政を期す。
- 四、自主と正義を基調とし、大陸發展の強腰外交を期す。
- 五、東亞の大合同を強張し、對白人國防の充實を期す。

趣旨

皇祖肇國の神勅は、皇道日本を推し擴めて、世界に仁愛を布くことと、括約し得べく、内は大和民族の共存共榮を圖り、外は帝國の大陸に對する、正義の發展を期成するにあり、則ち國策と謂ひ、國是と唱ふるも、畢竟この二大使命の遂行に歸著し、わが國本鞏固して、初めてその目的を達成し得るものなり。

然るに如何、現時の國家の情勢は、弊を資本主義經濟機構に發し資本の運用は資本家の自由に放任するの已むなき結果、資本家及びその結束たる財閥は、青天白日の下に、不當の搾取を強行し、或は政黨と結託し、所謂政黨として、國民の膏血を絞り、一方政黨はその黨勢の擴張に、また政治家は自家の繁榮に、共に國策民意を無視して、悪銭を財閥、政黨の利潤に求め、更に兩者協力して、他國の政治家、政商と密通し、國を忘れてその金權下に雌伏し、他國追隨の外交手段に出で、遂には統帥大權の干犯を、憂懼せらるるに到れり。

かくして内は治政極度に腐敗し、中産階級農民の生活危機に迫り、國民の思想は建國の理想を漸遠し、外は大陸の發展に蹉跌し、赤白化の自由作戦に委ね、國防また白人の桎梏に甘んじ、國本ために動搖し、皇祖肇國の大精神を離れて、内外諸國難一齊に逼迫殺到せり。即ち知る、現代日本の國本を危ぶし、諸種の國難に逢着せし根源は